

走って、投げてみんなでラグビー！

2月10日、ラグビートップリーグで2冠を達成したサントリーサンゴリアスの選手たちが木倉小学校（河地浩太郎校長）で復興支援ラグビー教室を開きました。チームの親会社、サントリーホールディングスが子どもたちのために開いたもの。当日は雪が降り、寒い中での活動となりましたが、現役選手7人と一緒に鬼ごっこや、声を出しながらパス回しなどをし、寒さをふっ飛ばしました。サンゴリアスの選手たちは「プレー中は声を出して、仲間に伝えること。コミュニケーションを大事にしてください」と話しました。児童たちは最後の時間まで、選手たちとふれあう時間をお楽しみしていました。



サンゴリアスの選手からリフトアップされてボールをキャッチする児童

ロータリークラブから防犯グッズ

2月14日、町内小学校（6校）に熊本平成ロータリークラブ（増田博文会長）から防犯グッズが贈呈されました。この取り組みは12年前から始めており、子どもたちが安心して学校に行けるような環境づくりを学校と地域の関係団体と連携しながら、防犯に取り組んでもらうために行われたもの。贈られたものは、防犯ベスト、防犯キャップを120着、防犯旗が60本。本田教育長は、「防犯の大切さを自覚している。子どもたちのために大事に使いたい」と話しました。



贈呈した増田会長（中央）

第43回郡市対抗熊日駅伝大会

2月12日、第43回郡市対抗熊日駅伝大会が開催され、県内19チームが天草の地に集結しました。御船からは御船出身を含め3人の選手が力走。上益城郡は5時間44分55秒の記録を残し、10位となっております。

3区 (11.7 ㌾)	6区 (6 ㌾)	8区 (10.2 ㌾)
増田 晃大	松永 匡史	山下 駿
36分59秒 区間15位	19分41秒 区間7位	33分36秒 区間8位



9区にタスキを繋ぐ、8区の山下駿選手（辺田見）

こども園みどりの里でマリオネット

2月16日、こども園みどりの里（北森光代園長・53人）でマリオネットを楽しんでもらうために、埼玉県からマリオネットの作者であるオレンジパフェさんが訪問されました。震災以降、5月から被災地の幼稚園・保育園を回ることと笑顔をお届けしており、同じ思いを持つジャーナリストの堀潤さんも同行しました。マリオネットは全てオレンジパフェさんお手製のもの。もっと触れて、楽しんでもらえるようにと1体を園に贈呈しました。オレンジパフェさんは「園児たちを元気づけるために行ったが、皆の笑顔を見ると逆に元気をもらった」と目に涙を浮かべながら話しました。



マリオネットを自在に操るオレンジパフェさん（右）

音楽の炊き出しコンサート

2月1日、落合仮設住宅の“みんなの家”で、ヴァイオリニストの古澤巖さんとピアニストの阿部篤志さんによる音楽の炊き出しコンサートがありました。この企画は、くまもと音楽復興支援100人委員会が主催し、「少しでも心の癒しとなれば」との思いで実施。コンサートには多くの方が来場し、優しく弾くヴァイオリンと力強いピアノの音色に聞き入っていました。最後は、コーラスカトレアの合唱に合わせ、参加者たちも一緒に歌い、会場は一体となりました。



会場は楽器の音色や美しい歌声に包まれました



1_園児たちとおじいちゃん、おばあちゃんまで力を合わせて鬼を追いかけている様子 2_おばあちゃんと一緒に手遊びを楽しむ園児

若葉保育園がオアシスで豆まき！

2月3日、節分の日に若葉保育園（本田恵美子園長・28人）の園児たちが毎年恒例の豆まきで養護老人ホームオアシスを訪れました。園児たちは、入居者を前に得意のダンスを披露したり、手遊びをしてお互いに笑い合い、会場を盛り上げました。鬼が現れると、「鬼は外！福は内!!」のせりふで豆を投げ、皆と一緒に鬼を払いました。入居者の中川サエ子さんは「今日はすごく楽しかったです。みんなのために長生きします」と話しました。最後はお互いにプレゼント交換をし、感謝の気持ちを伝え合いました。

菊池市から復興応援米

2月3日、菊池市（江頭実市長）から「くまもと復興応援米」が贈呈されました。このお米は、菊池市で開催された菊池米食味コンクールや米・食味分析鑑定コンクール国際大会で集まり、出品者の協力でいただいたものです。出品米は合計約6トン集まり、その内、町には約528キロ贈呈され、町内小中学校の給食に活用する予定です。菊池市農政課ブランド推進室の歌岡室長は、「菊池で作られたお米を少しでも被災している人に届けられるなら」と思いを話しました。



▲贈呈する歌岡室長（右）

▲くまもと復興応援米



地元住民に挨拶する蒲島知事

蒲島知事が旧七滝中仮設団地訪問

2月3日、蒲島郁夫熊本県知事が旧七滝中仮設団地を訪れました。今回は、震災から復旧・復興に向かうために、被災者の声を直接聞いて、今後はどう活かしていくかという考えのもと行われました。蒲島知事から被災者の今後の暮らしについて、様々な選択肢を挙げられ、仮設住宅の人たちは真剣なまなざしで聞いていました。質疑応答では、中山間地でのコミュニティの問題を中心に活発な意見が交わされ、これからの復興につながる有意義な時間となりました。